

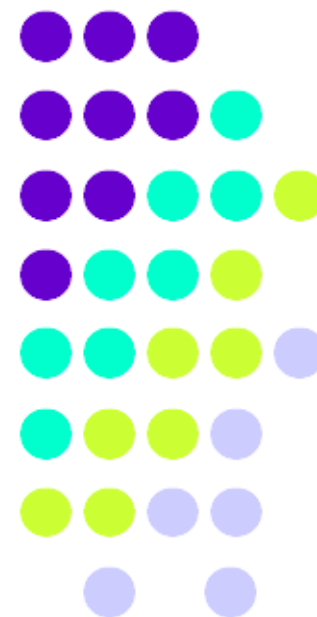
# 最近の(社)群馬県建設業協会の広報活動について

建設産業の魅力を発信するための戦略的広報検討会

平成24年12月17日(月) 15:30～ 於 建設業振興基金会議室

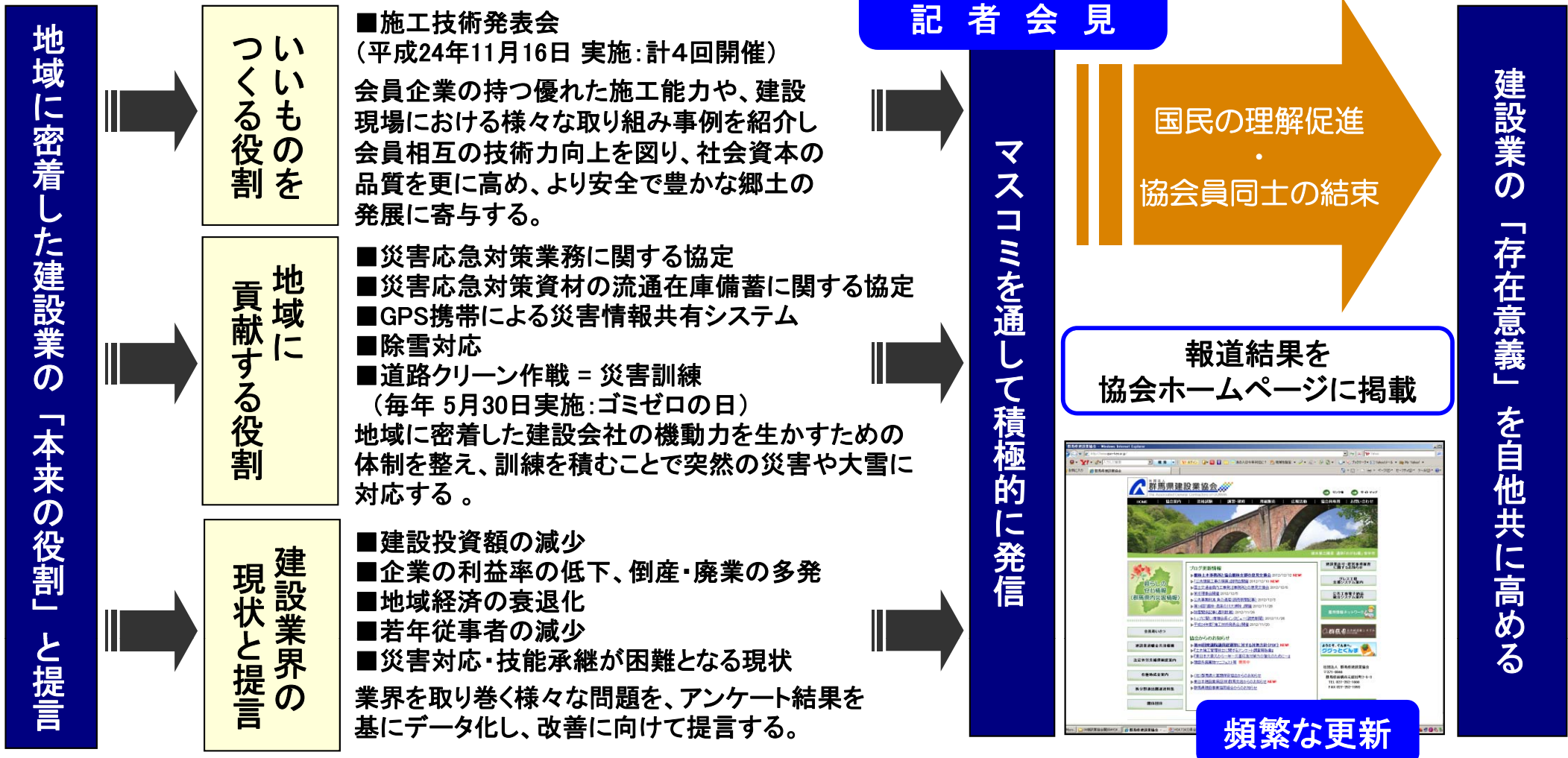


The Associated General Contractors of GUNMA



# (社) 群馬県建設業協会の広報活動について

1. 広報活動の意義 ……P. 1
2. 広報活動に対する基本姿勢 ……P. 2
3. 要望・提言活動とマスコミ発表の流れ ……P. 3～ 5
4. 最近の広報 ……P. 6～10
  - ・ 流通在庫備蓄 (H23. 9. 1)
  - ・ 提言冊子「東日本大震災から一年」 (H24. 3. 7)
  - ・ 道路クリーン作戦 (H24. 5. 29)
  - ・ GTV「ニュースeye8」出演 (H24. 5. 21)
  - ・ 土木施工管理技士に関するアンケート調査 (H24. 7. 12)
  - ・ 施工技術発表会 (H24. 11. 16)
  - ・ 除雪体制について
  - ・ 協会PR/DVDの作成
5. まとめ ……P. 11



H22.12.17 リニューアル  
(H24.12.14現在 158,761アクセス  
≒6,600アクセス/月)

□GPS携帯を使った災害情報共有システムがきっかけ（IT化）

□受発注者間での**内向きな要望活動**から**外向きの提言活動**へ

□具体的なデータに基づいた提言

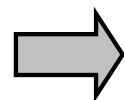
□・分かりやすいアンケート

・結果の出るアンケート

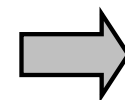
・書いていて楽しいアンケート

・参加型のアンケート

・手づくりアンケート



回答率の向上



結果は回答者に返す

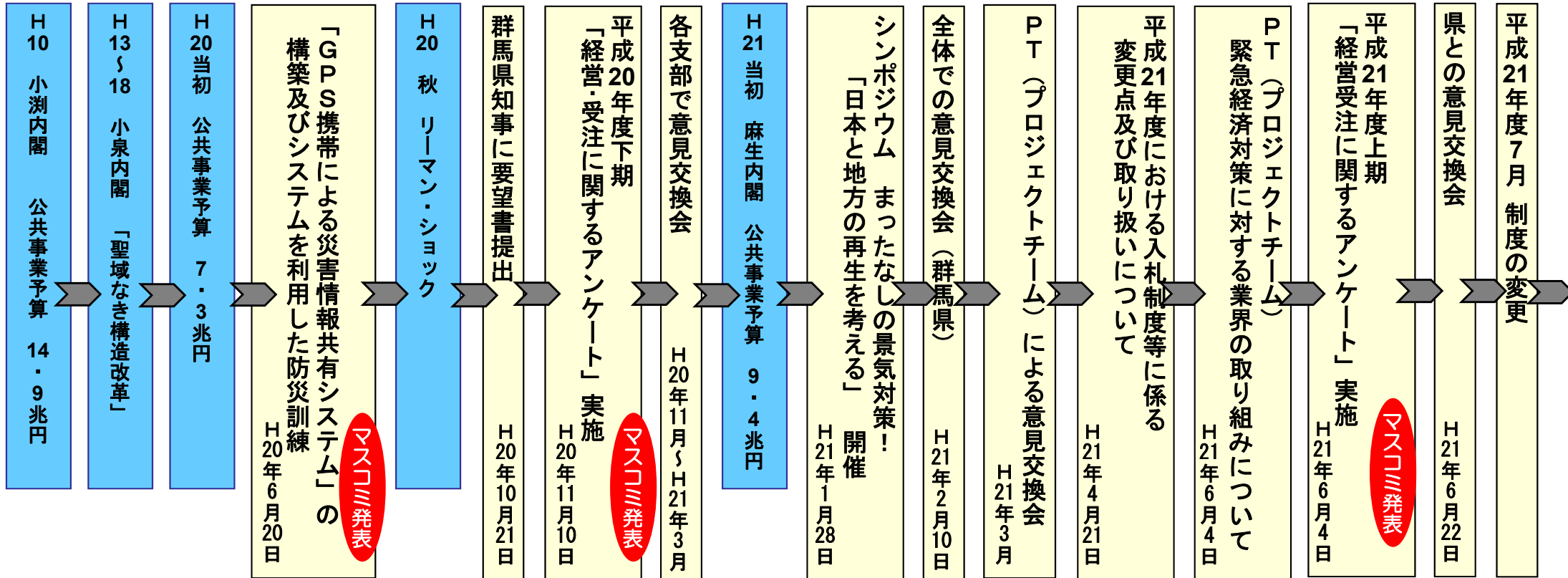
□業界の変化に対応したアンケート及び提言（量の変化、制度の変化、社会の変化、災害）

□一般マスコミ（国民）に理解される活動を協会活動とする

□マスコミと連絡を密に

□積極的にプレスリリースをする（地元テレビ、上毛新聞をメインに）

# 3. 要望・提言活動とマスコミ発表の流れ①



## 疲弊する建設業界

- ・ 08年 381社（ピーク） 群馬県建設業協会会員数
- ・ 09年 685万人（ピーク） 全国建設業就業者数
- ・ 13年 小泉首相 公共事業費 年率3%削減を表明
- ・ 地方名門ゼネコンが連鎖破綻 井上工業、山内工業、小山建設工業 など

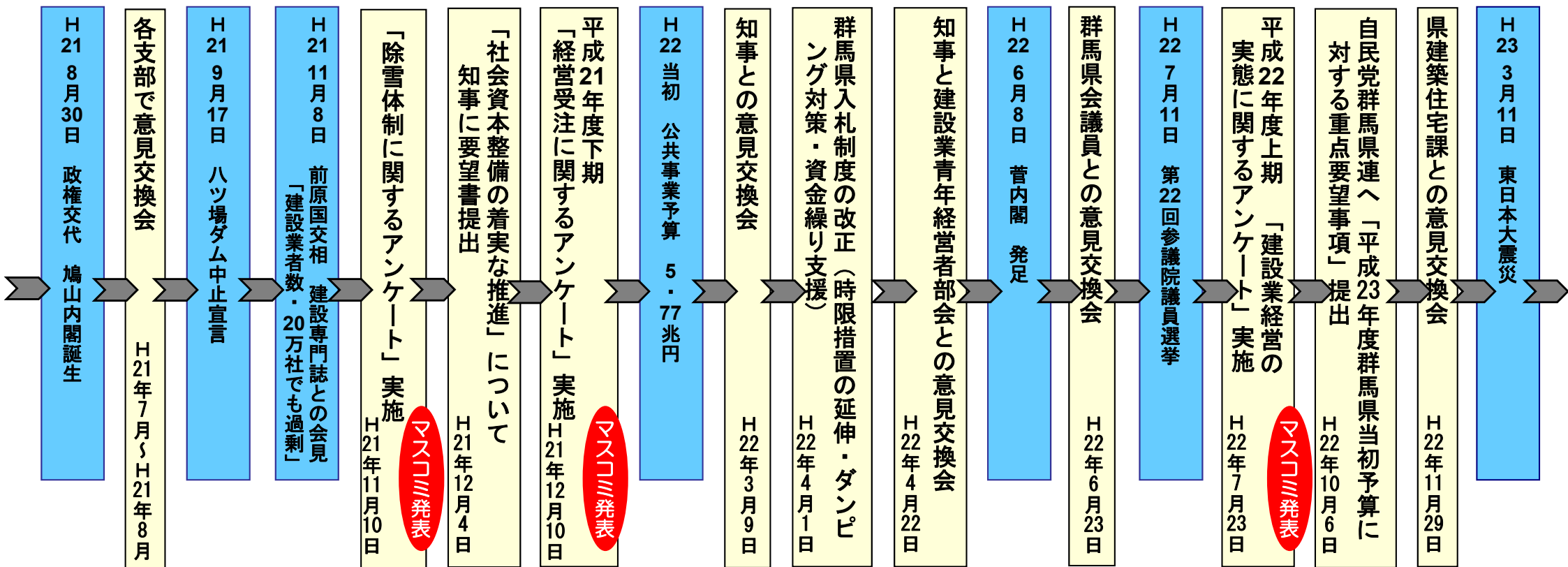


・ 20年マニシヨンプームの終焉



- ・ 21年5月15日 群馬県建設業協会 会長に就任
- ・ 21年4月1日 群馬県入札契約制度の変更
- ・ ① 指名競争入札の活用（予算の早期執行を図る為の措置）
- ・ ② ダンピング対策の改善
- ・ ③ 電子入札へ全面移行
- ・ 一億円未満の工事を対象

# 3. 要望・提言活動とマスコミ発表の流れ②



## 不安感が増幅する建設業界「要望から提言へ」

・21年キャッチフレーズ「コンクリートから人へ」



・21年12月21日 フジテレビ「とくダネ！」出演  
 「除雪作業の危機」



・21年12月 建設通信新聞寄稿「地域を担う建設業者」  
 「20万社は多いか」



・22年6月5日 週刊ダイヤモンド「ゼネコン崩落」  
 群馬 保守王国は瓦礫？」

・22年6月30日 TBSテレビ「Nスタ」出演  
 「揺れる「ハツ場」」



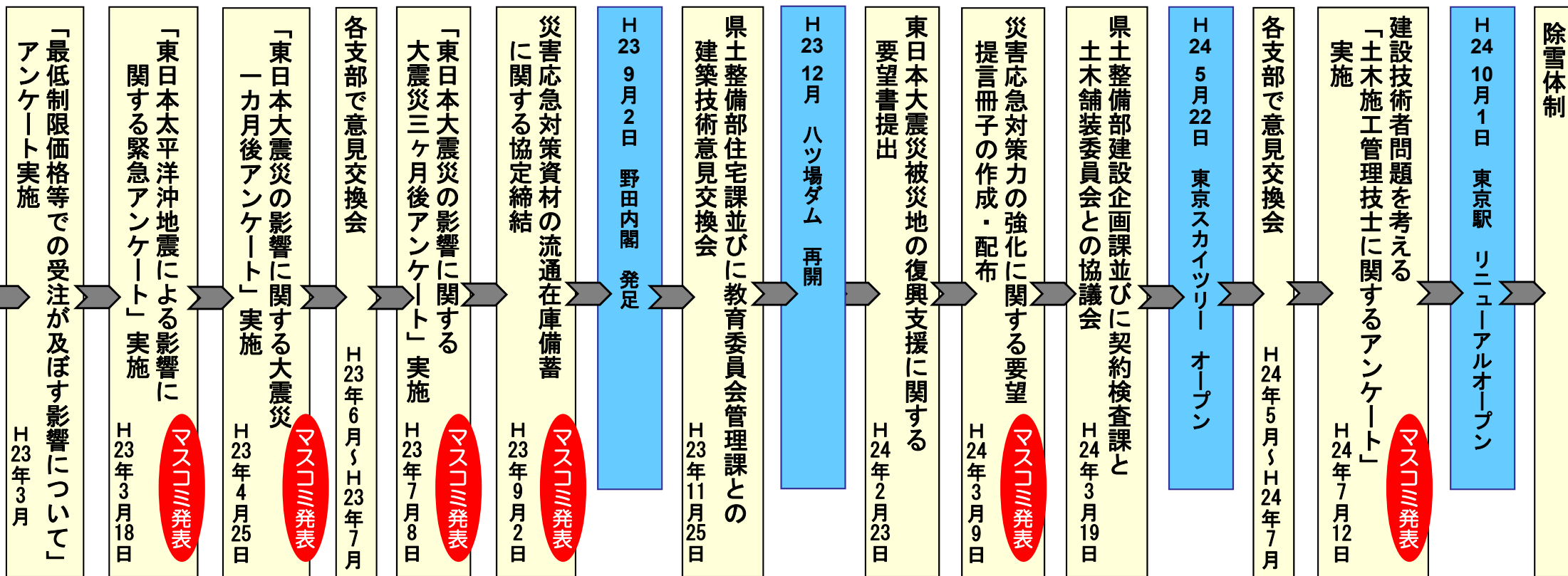
・22年 群馬県建設業協会会員数 264社

・22年 4月県内倒産件数15件 (その内3割が建設業)

・住宅着工棟数80万戸割れ (ピーク時140万戸)

・全国建設業就業者数 489万人 (04年から百万人減)

# 3. 要望・提言活動とマスコミ発表の流れ③



## 建設産業の再生と発展のための方策2011・2012／国土交通省



一カ月後アンケート  
朝日新聞 H23.4.28

・23年7月26日 日刊建設工業新聞  
「論客の主張／10分の1の理論」



「論客の主張／10分の1の理論」  
日刊建設工業新聞 H23.7.26



H23.5.17 政策協定締結



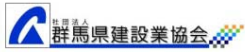
H23.9.2 流通在庫備蓄 協定締結



提言冊子「東日本大震災から一年」

- ・24年11月23日 読売新聞 インタビュー  
「地域を築き守る土木技術」
- ・24年10月4日 日刊建設工業新聞 インタビュー  
「いま地域建設業に何が必要か」
- ・24年9月 県発注工事の中間前金払い制度の簡素化
- ・24年5月28日 日経コンストラクション 「広報戦略」
- ・24年5月21日 群馬テレビ 「ニュースeye8」出演
- ・23年 群馬県建設業協会会員数 258社

## 流通在庫備蓄 (H23. 9. 1)



災害応急対策資材の流通在庫備蓄の開始について

記者発表資料

群馬県建設業協会は、3月11日に発生した東日本大震災の経験を振り返り、災害応急対策を担う建設業者として災害発生時に直ちに必要となるブルーシート、大型土のう袋、土のう袋を分散して備蓄することと致しました。

備蓄の方法は、災害応急対策資材を購入して購入先の流通会社に保管をお願いする流通在庫備蓄方式としました。この流通在庫備蓄に関する協定の締結式を次のとおり行いますので、ご案内いたします。

1 日時	平成23年9月2日(金) 13時30分		
2 会場	群馬建設会館 3階 理事会室		
3 協定流通会社、流通在庫	ブルーシート	大型土のう袋	土のう袋
株式会社日夕(前橋市)	7,000枚	350枚	7,000枚
小笠原興業株式会社(高崎市)	7,000枚	350枚	7,000枚
株式会社ホリグチ(沼田市)	6,000枚	300枚	6,000枚
流通在庫備蓄量	2,000枚	1,000枚	20,000枚

今後は、近隣の建設業協会等呼びかけお互いの災害応急対策資材の備蓄量を増やし、巨大災害に対する備えを一步でも強めてまいります。

平成23年 9月 1日

問い合わせ先
社団法人群馬県建設業協会
住所：群馬県前橋市元郷社町2-5-3
電話：027-252-1666(代)
会長 青柳 剛
専務理事 田村 秀夫

### 【プレスリリース】 災害応急対策資材の流通在庫備蓄の開始について

日時：平成23年9月2日  
 場所：群馬建設会館 3階 理事会室  
 報道：読売新聞、日本経済新聞、毎日新聞、東京新聞、上毛新聞、建設通信新聞、日刊建設工業新聞、群馬建設新聞、群馬テレビ



【記者会見の様子】

### 東日本大震災の経験より：(社)群馬県建設業協会の対応と抽出された問題点

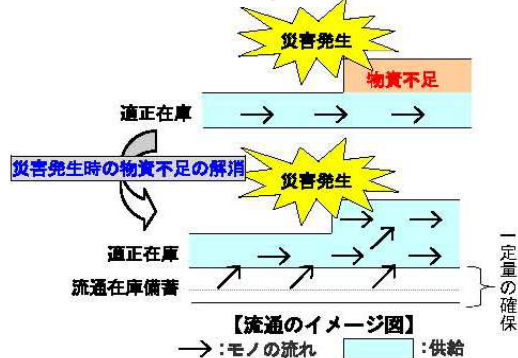
災害時の応急対策を担う建設業者として、災害応急資材の一定量の備蓄が必要

災害への備え：流通在庫備蓄方式

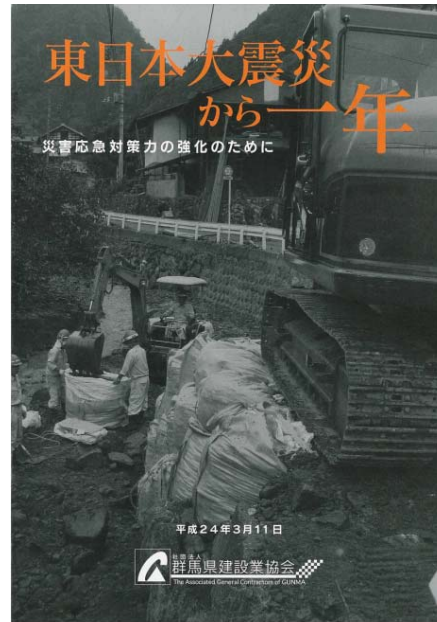
実効ある広域連携を図り、巨大災害に対する備えを一步でも強める



【流通会社3社との協定】



## 提言冊子「東日本大震災から一年」(H24. 3. 7)



### 【プレスリリース】 東日本大震災から一年 ～災害応急対策力の強化のために～

日時：平成24年3月9日  
 場所：刀水クラブ  
 報道：読売新聞、日本経済新聞、上毛新聞、建設通信新聞、日刊建設工業新聞、群馬建設新聞



【知事へ冊子と要望書の提出】 【記者会見の様子】

1. 災害対策に必要な道路ネットワークの整備
2. 建設工事の県内発注率の向上
3. 建設工事JV制度の積極活用

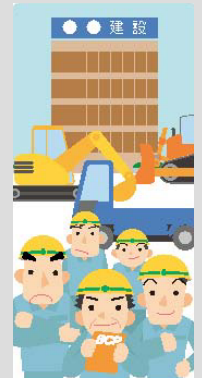
## 災害応急対策力の強化のための提言

### <国、県、市町村に対して>

- ①大規模災害時における出動要請の調整
- ②災害対策車両の優先通行、優先給油
- ③社会資本の強靱化
- ④非常時の通信手段、燃料の確保
- ⑤地域における災害応急対策力の維持

### <建設業の仲間に対して>

- ①建設業の役割
- ②災害応急対策力の向上
- ③技術力の維持・向上





## 道路クリーン作戦 (H24. 5. 30)

あす県内各地で「道路クリーン作戦」

古里守る「地元」の目

県建設業協会 青柳会長に聞く

震災の教訓生かせ

道路クリーン作戦

2012年5月30日

上毛新聞一面広告 H24.5.29

管内の幹線道路を中心に、空き缶・空き瓶のゴミ拾いやカーブミラー等の清掃活動を行い、**地域に貢献する産業としての役割**を示す。

報道：上毛新聞、読売新聞、群馬建設新聞、群馬テレビ

建設業協会2000人 12か所の道路清掃

道路上のゴミを回収し、地域をきれいにしようという「第26回道路クリーン作戦」が30日、県内12か所で行われた。写真1。

この取り組みは、県内の建設業者でつくる「建設業協会」が、毎年1988年から毎年実施。今年も、県内全12支部が約3,000社2,000人が参加した。今年初の回収量は、計約20トンに上る見通しという。

橋本市元郷町の群馬建設協会館で出動式を開催。同市の山本龍市長らが激励の言葉をかけた。

同支部では、社員の1/2人が、1日路線の計約4キロを手分けして清掃。参加者からは、汗をぬぐいながら、植え込みの空き缶などを丁寧に拾っていた。今年初の回収量は、計約20トンに上る見通しという。

読売新聞 平成24年3月31日

読売新聞 H24.5.31

「ごみゼロの日」で清掃作業

群馬テレビ ニュースeye8 H24.5.30

群馬テレビ ニュースeye8 H24.5.30

「ごみゼロの日」で道路クリーン作戦

群馬テレビ ニュースeye8 H24.5.30

群馬テレビ ニュースeye8 H24.5.30

## GTV「ニュースeye8」出演 (H24. 5. 21)

ニュースeye8

青柳剛さん

岩手県を視察(昨年9月)

さまざまな企業のトップがインタビューに答える「リーダーズeye」のコーナーに、(社)群馬県建設業協会 会長として出演。

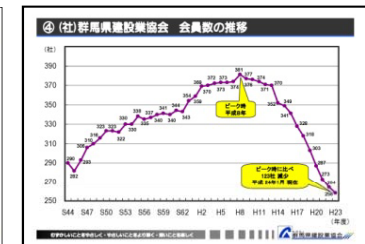
東日本大震災への対応や、建設業のおかれている現状、課題、地域における役割などについて、業界の立場から質問に答えた。



[従業員数の比較]



[県内公共工事量の推移]



[会員数の推移]

## 土木施工管理技士に関するアンケート調査 (H24. 7. 12)

### 【主な調査結果】

・ **技術者の過半数は50歳以上**  
 10年区分の年齢構成をみると、50歳代が最も多く（1級土木施工管理技士38%、2級土木施工管理技士29%）、若年層が少ない。定年を迎える60歳代になると急激に減少するので、現状のまま推移すると、数年後には著しい技術者不足が発生する。

土木施工管理技士 50歳以上が過半数  
 土木工事現場技術職理などを行う多くの「土木施工管理技士」の半数が50歳以上であることが、同協会が実施したアンケート結果で明らかになった。技術者の高齢化が進み、若手育成が急務となっている実情が浮き彫りとなった。

技術者の減少に関する質問に対し、6割の企業が「不足」と回答。技術者の不足を克服する手段として、1「採用を困難とした企業は9割を超えた。新卒者を土木施工管理技士に育成する課題について」、「受任者が高齢であり、計画的な若手・育成の促進が不可欠」という意見が多かった。また、「採用抑制」が理由として挙げられた。採用抑制の理由として、「採用コストの増加」、「採用のハードルが高くなった」、「採用のハードルが高くなった」、「採用のハードルが高くなった」など、若手育成の重要性が認識されていることが明らかになった。

アンケートは会員企業348社を対象に実施し、290社から回答を得た。

【産経新聞 H24. 7. 17】

## 50歳以上が過半数



### 不足認識も採用抑制

群建協 土木技術者の調査まとめ  
 土木技術者の減少が懸念されている。アンケート調査の結果、6割の企業が技術者の不足を認識していることが明らかになった。また、採用抑制の理由として、採用コストの増加や採用のハードルの高くなったことが挙げられた。若手育成の重要性が認識されていることが明らかになった。

群馬建設新聞 平成24年7月13日

【群馬建設新聞 H24. 7. 13】

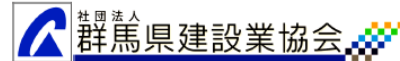
報道：上毛新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞、建設通信新聞、日刊建設工業新聞、群馬建設新聞



【記者会見の様子】

## 施工技術発表会 (H24. 11. 16)

建設現場における様々な取り組み事例を紹介し、会員相互の技術力向上を図り、社会資本の品質を更に高め、安全で豊かな郷土の発展に寄与するため、「施工技術発表会」を開催。今年度は、話題性のあるテーマで特別講演を組み入れた。



## 平成24年度(第4回)施工技術発表会

群馬県建設業協会は、会員企業の持つ優れた施工能力や、建設現場における様々な取り組み事例を紹介し、会員相互の技術力向上を図り、より安全で豊かな国土の発展に寄与するため、「施工技術発表会」を開催いたします。

また、今年度は、東京スカイツリーの建設に関わられた(株)大林組建築本部副本部長の川瀬俊二氏を招いて、特別講演を開催いたします。

平成24年 11月16日(金) 13:00~16:30

群馬建設会館 大ホール (前橋市元総社町2-5-3)

実施内容 建設現場における創意工夫、新技術等の発表(施工管理/品質管理/安全管理等) 土木12事例 建築5事例 計17事例 (CPDS認定講座)

特別講演 15:30~

## 東京スカイツリー物語

— 世界一の電波塔、東京スカイツリーは如何にして建設されたか —

最先端の技術力を結集したスカイツリー建設に関わられた川瀬俊二氏(株)大林組建築本部副本部長が、設計(日建設計)から施工にいたる様々な課題解決、耐震技術などについて講演します。



川瀬俊二氏 略歴

1級建築士・設計専攻建築士・APEC ARCHITECT  
 1973年 早稲田大学理工学部建築学科卒業 同年 大林組入社  
 1997年-2002年 電通設計室室長  
 2000年-2008年 大林組東京本社設計部部長  
 現在、大林組本社建築本部 副本部長(プロポーザル担当)

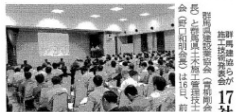
主要設計担当作品 横浜ビジネスパーク、電通本社ビル  
 主な受賞歴等 2009年 日本建築美術工芸協会 特別賞 (aaca特別賞)  
 2010年 東京建築賞奨励賞 (乃村工務社+日建設計+大林組)  
 2011年 日本建築学会賞業績賞 (六花の森)

入場無料(定員になり次第締め切らせていただきます)  
 申込/問合せ先 群馬県建設業協会 荒木 TEL 027-252-1666 FAX 027-252-1993

主催：社団法人群馬県建設業協会 後援：群馬県 東日本建設業保証㈱群馬支店  
 ：群馬県土木施工管理技士会  
 ：日本工業経済新聞社前橋支局  
 ：日刊建設工業新聞社関東支社  
 ：日刊建設通信新聞社北関東支局



### 最優秀賞に諸星建設



17社が事例説明  
 群馬県建設業協会が主催する「施工技術発表会」が、11月16日(金)前橋市元総社町2-5-3の群馬建設会館大ホールで開催された。今年度は、建設現場における創意工夫、新技術等の発表(施工管理/品質管理/安全管理等) 土木12事例 建築5事例 計17事例 (CPDS認定講座)が実施された。

### 東京スカイツリーで特別講演

最先端の技術力を結集したスカイツリー建設に関わられた川瀬俊二氏(株)大林組建築本部副本部長が、設計(日建設計)から施工にいたる様々な課題解決、耐震技術などについて講演した。講演は、最先端の技術力を結集したスカイツリー建設に関わられた川瀬俊二氏(株)大林組建築本部副本部長が、設計(日建設計)から施工にいたる様々な課題解決、耐震技術などについて講演した。

【建設通信新聞】平成24年11月20日

【建設通信新聞 H24. 11. 20】

【開催案内チラシ】



## 協会PR/DVDの作製



### PR・DVD【社会に貢献する建設業 群馬県建設業協会】 ～収録内容～

(下キヤプチャ画像参照)

- ◆「地域に貢献する役割」
  - ・道路クリーン作戦 …①
  - ・災害情報共有システム（災害訓練）…②
- ◆「いいものをつくる役割」
  - ・施工技術発表会 …③
- ◆その他
  - ・東日本大震災被災地への義援金贈呈…④
  - ・除雪体制に関するアンケート調査 …⑤
  - ・政策協定 …⑥



【タイトル】



①道路クリーン作戦



①道路クリーン作戦



②災害情報共有システム  
（災害訓練）



②災害情報共有システム  
（災害訓練）



③施工技術発表会



④東日本大震災被災地への  
義援金贈呈



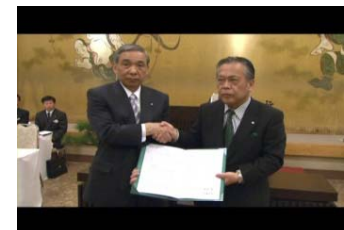
④東日本大震災被災地への  
義援金贈呈



⑤除雪体制に関する  
アンケート調査



⑤除雪体制に関する  
アンケート調査



⑥政策協定



⑥政策協定

1. Tell the truth. [とにもかくにも本当のことを言う。]
2. Listen to the question. [質問によく耳をかたむけろ。]
3. Know your audience. [自分の視聴者・観ている人を知れ。]
4. Answer directly. [すぐ答えられるように。]
5. Stick to your objectives. [目的からぶれないように。]
6. Anticipate question. [質問をよく読み込め。]
7. If you don't know, Say so. [もし知らなければ、知らないと言う。]
8. Headline your answer. [見出しになるような簡潔明瞭な答えをしなさい。]
9. Protect the record. [記録したものは保護しなさい。]
10. Maintain control. [記者会見が円滑に進むように、組織や個人が役割を自覚する。]
11. Avoid arguments. [議論は避けなさい。]
12. Use personal examples. [個人的な経験を記者会見で用いてみる。]
13. Never say "No comments". [「わかりません」「知りません」「言えません」を延々言わない。]
14. Nothing is "Off the record". [「オフレコ」という表現は大変重要な情報とみなされるので、いかなる場合も使わない。]

(社) 全国建設業協会  
広報戦略検討会 資料より



むずかしいことをやさしく・やさしいことをより深く・深いことを楽しく



The Associated General Contractors of GUNMA